セミナー情報

そんな書き方では伝わりません。
そろそろ、わかりにくい説明をやめませんか？

取説はなぜ読む気にならないのか？

「伝わる取説」の作り方講座【実践編】

取説のグローバルスタンダード

PL 法では、製品の欠陥によって損害が生じた場合の損害賠償責任について定めています。製品の欠陥には取扱説明書の表示不備が含まれ、そのためか、製品の取扱説明書（取説）は、とりわけ企業のディフェンスツールとして位置づけられる傾向があります。
しかし、グローバルスタンダードでは、製品のリスク低減方策は、第一に安全な製品を設計することとされており、取扱説明書などへの表示によるリスク低減方策は、最後の手段となっています。
つまり、リスクがあれば取扱説明書などへの表示すればよい、というわけではありません。

「伝わらない」リスクの大きさ

また、「わかりやすく伝える技術」を学ぶ機会が少ない日本では、わかりやすい取説を作ろうと努力しても、わかりにくくなりがちです。
設計段階で取り除けない製品の危険については、取扱説明書や安全ラベルなどの表示でユーザーに伝えなければなりませんが、ユーザーが、「やるべきこと」や「してはいけないこと」を正しく理解できなければ、ユーザーは危険にさらされることになります。したがって、「わかりやすさ」というのは、ユーザーの安全に大きく関係しているといえます。「わかりやすく伝える技術」を身に付けることが、リスクマネジメントの一環として求められるのではないでしょうか。

セミナーのご案内

当協会は、1999 年 11 月に任意団体として設立して以来、危機管理、知的所有権、PL 予防対策など、わが国のリスクマネジメントのあり方の研究や提案を行ってまいりました。

このセミナーでは、製品事故や PL 訴訟リスクの軽減のために、製品の取扱説明書が「いかにあるべきか」、をさまざまな角度で解説しています。
人の脳が、ものごとをどのように理解するのか、その仕組みを知った上で、情報伝達のコツ、理解しやすい情報の出し方、わかりやすい文章の書き方、などをお伝えします。
数多くの企業のマニュアルを診断し、指導してきた経験豊富な講師が、「伝える」ノウハウを惜しみなく開示する、実践的なセミナーとなっています。

NPO 法人セフティマネジメント協会